

KENWOOD

VHF FM 無線電話装置

TCM-124

UHF FM 無線電話装置

TCM-224-360

TCM-224-400

TCM-224-450

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる場所に保存してください。

本機は日本国内専用のモデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド

KENWOOD CORPORATION

© B62-1446-00

09 08 07 06 05 04 03 02 01 00

目次

機種一覧表	2
安全上のご注意	3
各部の名称と機能	6
基本操作	8
待受受信操作	8
送信操作	10
閉局	10
受信音質設定	11
ピーブ音量設定	11
スケルチレベル設定	12
セレコール機能	13
セレコール呼び出し	13
セレコール不在着信	15
セレコール・メッセージメモリー	17
セレコール・メッセージ自動応答	18
セレコール・プリセット呼び出し	18
エマージェンシー	19
録音再生制御	20
その他の機能	21
スケルチオープンの遅延機能	21
スケルチ/モニター	21
セレコール動作ミュート解除	
条件選択機能	21
一斉・グループ呼び出し	
コード送出遅延機能	21
タイムアウトタイマー	22
トーンモードによる音声のミュート	
と話中ランプの制御	22
ピーブ音のON/OFF	23
ビジーチャンネルロックアウト	23
マイクフック機能	23
マイクミュート解除音	23
ミニマムボリューム	23
リセットセレコール	23
CTCSS	24
DCS	24
運用上の注意	25
免許状	25
使用上の制限	25
免許の有効期限	25
免許の申請その他の手続き	25
保守	26
故障かな?と思ったら	26
定格	27
付属品とオプション	27
保証とアフターサービス	裏表紙
修理を依頼されるときは	裏表紙

機種一覧表

本書は、下記の簡易無線機と一般業務用無線機を共通に説明しています。

簡易無線機

機種名		送信出力
150MHz帯 (3チャンネル)	400MHz帯 (5チャンネル)	
TCM-124CT	TCM-224CT	1 ~ 5W

簡易無線機は法令により自動識別装置(ATIS)を内蔵しています。

一般業務用無線機 (最大 32 チャンネル)

機種名		送信出力
150MHz帯	400MHz帯	
TCM-124FT	TCM-224FT360 TCM-224FT400 TCM-224FT450	1 ~ 10W

免責事項について

商品の故障・誤動作などにより、利用の機会（通話など）を逸したために発生した障害などの付随的損害については、当社は一切その責任を負いかねます。

安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため、この「安全上のご注意」と取扱説明書をご使用の前によくお読みください。お読みになった後は必要なときにご覧になれるように大切に保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

- ⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
- ❗ 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

使用禁止について

運転しながら交信しないでください。
交通安全上、危険があります。

電子機器（特に医療機器）の近くや、
航空機・空港・新幹線内と、これらの
関連施設の周辺では、電源のON/OFF
を含めて無線機の操作は絶対にしないで
ください。

制御設備の故障・誤動作の原因になりま
す。

本機の使用について

DC電源コードに重いものをのせたり、
加熱したり、無理に曲げたり、
ひっぱったり、ねじったり傷つけたり
しないでください。

芯線が露出・断線したり、圧迫されたまま
使用すると、火災・感電・故障の原因とな
ります。

ぬれた手でDC電源コードに触わらな
いください。

感電の原因となります。

長時間の連続送信はしないでくださ
い。

本体の温度が上昇して、やけどの原因とな
ります。

アンテナのごく近くに人・動物・
ペット等がいるときは、電波を発
射しないでください。

やけど、目の異常の原因となります。

ぬらしたり、ぬれやすい場所で使用し
ないでください。

水滴が付いたときは、乾いた布でふきとっ
てください。

内部に水が入った場合は、お求めの販売店
にご連絡ください。そのまま使用すると、
火災・感電・故障の原因となります。

本機を布・布団等で覆わないでください。



火災の原因となります。

内部に金属片・異物等を入れたり、入りやすい環境で使用しないでください。



金属片・異物等が入った場合は、お求めの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

ケースは開けないでください。



けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お求めの販売店にご依頼ください。

異常時の処置について

異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするときは、次の手順で対処してください。



- 1 電源スイッチを切る
- 2 DC電源コードを電源から外す
- 3 煙が出なくなるのを確認する
- 4 お求めの販売店に連絡する

お客様による修理は、危険ですから、絶対におやめください。

雷が鳴り始めたら、安全のため早めにDC電源コードとアンテナ・コネクタを外してください。



火災・感電・故障の原因となります。

本機を落としたり、ケースを破損した場合は、電源スイッチを切り、DC電源コードを外してから、お求めの販売店にご連絡ください。



そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

⚠️ 注意

使用方法について

テレビやラジオの近くで使用しないでください。



電波障害を与えたり、受けたりします。カーラジオやカーステレオにノイズが入るときは、アンテナの位置を調節してください。

アンテナを接続しない状態で、送信しないでください。



火災・故障の原因となります。

スピーカー・マイクコネクタ、外部スピーカー・ジャックには、付属または指定のもの以外は接続しないでください。



故障の原因となります。

長期間ご使用にならないときは、必ず電源スイッチを切り、DC電源コードを外してください。



火災・故障の原因となります。

保守・点検

お手入れの際は、必ず電源スイッチを切り、DC電源コードを外してください。



火災・感電・故障の原因となります。

設置・接続時の安全について

設置と接続は、お求めの販売店にご相談ください。

販売店では、以下の注意事項に従って本機を設置・接続しております。ご使用前に、これらの注意事項も必ずお読みください。

設置・接続時の ⚠️ 警告

分解・改造したものは使用しないでください。



火災・感電・故障の原因となります。

設置場所は、車の運転の妨げにならない安全な場所を選んでください。



直射日光の当たる場所や、風通しの悪い場所には設置しないでください。



火災の原因となります。

振動や衝撃に耐えられるように、車載取付金具はねじを必ず4カ所止めてください。



本機の電源電圧はDC13.8VおよびDC26.4Vです。DC13.8V±10%およびDC26.4V±10%を超えるDC電源には接続しないでください。

火災・感電・故障の原因となります。送信時には大電流が流れます。付属品以外のDC電源コードは使わないでください。

火災・感電・故障の原因となります。DC電源コードは赤い線がプラス極、黒い線がマイナス極です。極性を間違えて接続しないでください。

火災・感電・故障の原因となります。DC電源コードを無理に曲げたり、ひっぱったり、ねじったり傷つけたりしないでください。

芯線が露出・断線したり、圧迫されたまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

DC電源コードを加工したり、ヒューズホルダーを取り除くことは、絶対にしないでください。

火災・故障の原因となります。ぬれた手でDC電源コードに触らないでください。

感電の原因となります。

DC 安定化電源を接続する場合

指定以外の電圧で使用しないでください。

火災・感電・故障の原因となります。DC電源コードを接続する前に、無線機とDC安定化電源の電源スイッチは必ず切ってください。

感電の原因となります。他の機器とタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。

電源プラグとコンセントの間に、指や金属片が入るようなすき間をあけないでください。

火災・感電・故障の原因となります。電源プラグの刃にほこりが付着したまま使用しないでください。

ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

保守・点検・修理

ヒューズが切れているときは、原因を対策してから、必ず指定容量のヒューズを使って、交換してください。指定以外のヒューズを使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

設置・接続時の 注意

アンテナや同軸ケーブルに、指定以外のものを使ったり、調整が不完全なアンテナを使わないでください。

他の電子機器に電波障害を与えます。車載の場合、シガーライターソケットは電源容量が小さいため、使用しないでください。

火災・故障の原因となります。DC電源コードはヒーターや熱器具の吹き出し口近くに配置しないでください。

被ふくが溶けて火災・感電・故障の原因となります。

DC電源コードの着脱時にコード部分を引っ張らないでください。

火災・感電・故障の原因となります。本機を移動させる場合は、必ずDC電源コードを抜いてください。

DC電源コードが傷つくと、火災・感電・故障の原因となります。

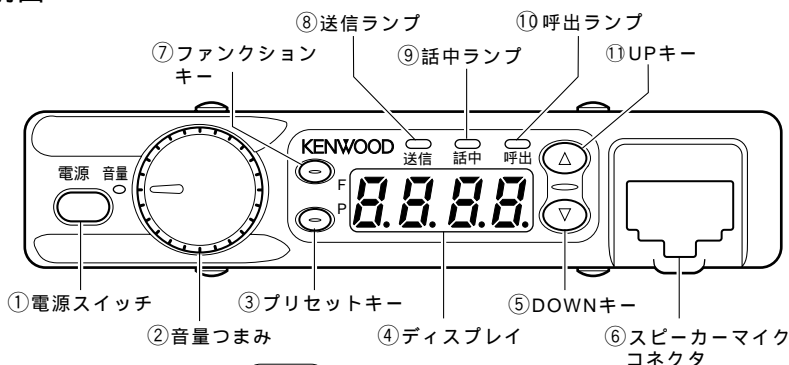
ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には設置しないでください。落ちたり、倒れるとけがや故障の原因となります。

油煙や湯気が当たる場所には設置しないでください。

火災・感電・故障の原因となります。

各部の名称と機能

前面



① 電源スイッチ (**電源**)

押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

② 音量つまみ (回す)

時計方向に回すと受信音量が大きくなります。反時計方向に回すと受信音量が小さくなります。設定により音量最小でも音声聞こえます (23 ページ参照)。

③ プリセットキー (**P**)

セレコール機能 ON 時に、プリセット番号を切り替えます。

④ ディスプレイ

設定されている状態を表示します。

⑤ DOWN キー (**▽**)

マルチチャンネル設定時にチャンネル番号がダウンします。1 秒間以上押すと連続してダウンします。

⑥ スピーカーマイク・コネクタ

付属のスピーカーマイクを接続します。

⑦ ファンクションキー (**F**)

設定項目を切り替えます。セレコール設定時に 1 秒間以上押すとセレコール機能を ON/OFF します。

⑧ 送信ランプ (赤)

送信中点灯 (スピーカーマイクのプレストークスイッチを押している間) します。

⑨ 話中ランプ (橙)

信号を受信している時、またはノイズスケルチが解除されている時に点灯します。

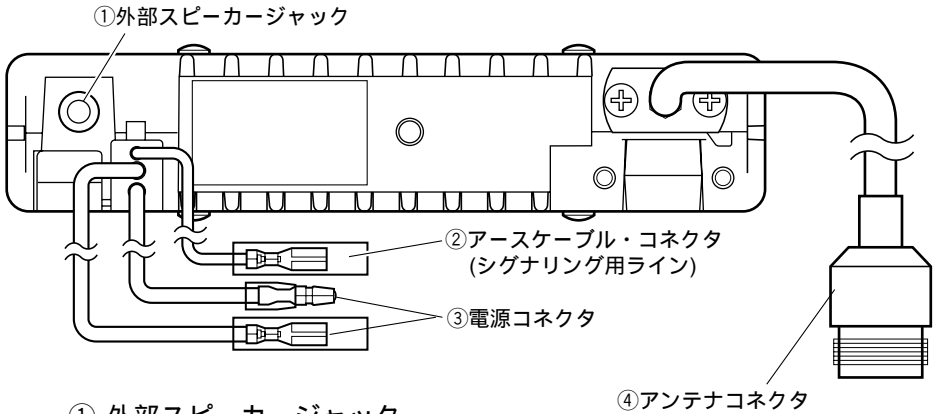
⑩ 呼出ランプ (緑)

セレコール動作時点灯。呼び出されたとき、不在着信時は点滅します。

⑪ UP キー (**△**)

マルチチャンネル設定時にチャンネル番号がアップします。1 秒間以上押すと連続してアップします。

背面



① 外部スピーカージャック

必要に応じてオプションのベースステーションKBS-1の外部スピーカープラグを接続します。

② アースケーブル・コネクタ (シグナリング用ライン)

販売店でシグナリング・スケルチ (CTCSS/DCS) の ON/OFF をマイク・フックに設定している場合は、マイク掛け金具 (付属品) のアース線をここに接続しないとシグナリング・スケルチは動作しません。

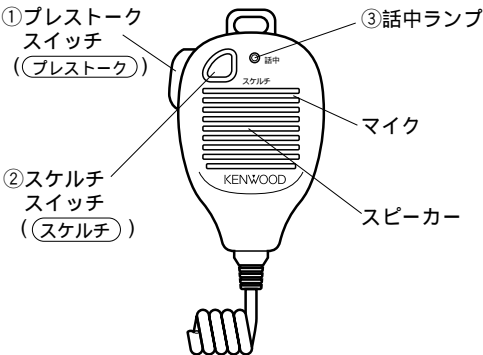
③ 電源コネクタ

付属の電源ケーブルを接続します。

④ アンテナコネクタ

N 型コネクタプラグで 50 系のアンテナケーブルを接続します。

スピーカーマイク



① プレストークスイッチ

押しと送信状態になり、送話できます。

② スケルチスイッチ

押しとノイズスケルチが解除され、受信状態になります。

販売店でシグナリング・スケルチの ON/OFF をスケルチ・スイッチに設定している場合は、シグナリング・スケルチも解除されます。

もう一度押しとスケルチが ON になり待受状態になります。

③ 話中ランプ (本体と連動)

信号を受信している時、またはノイズスケルチが解除されている時に点灯します。

基本操作

まちうけじゅしん

待受受信操作

基地局の場合、オプションのベースステーションKBS-1の取扱説明書もあわせてご覧ください。

注意

- ・ 他人の通信を傍受し、その存在もしくは内容を漏らしたり、窃用しないでください。

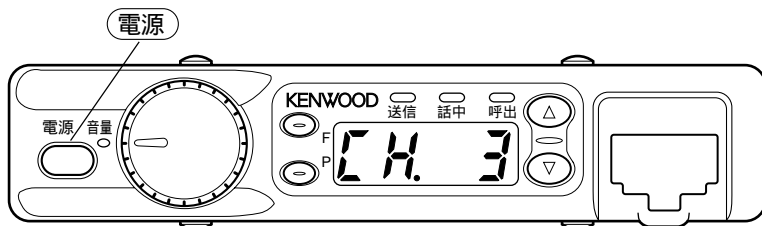
1. 電源を押す

基地局の場合は、先にベースステーションの電源を入れます。

ピーブ音が鳴り、ランプ（送信、話中、呼出）が全点灯したのち消灯し、待受受信状態になります。

ディスプレイには設定されているチャンネル番号が表示されます。セレコール機能がONの場合は、リセットセレコール番号または「FF」（一斉呼び出し）が表示されます。

相手局の電波を受信すると、スピーカーマイクから受信音が聞こえます。



マルチチャンネルの場合のみ

2. ○、○を押してチャンネルを合わせる

押すたびにチャンネル番号が変わります。1秒間以上押し続けると連続して変わります。

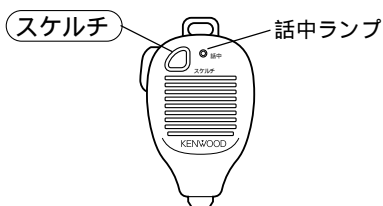
待受中に音量を調節するときは（ ）

3. スピーカーマイクをマイク掛け金具から外す

シグナリング・スケルチ（CTCSS/DCS）が解除されます。

4. スピーカーマイクの(スケルチ)を押す

ノイズスケルチが解除され、「話中ランプ」が点灯します。



（ ）販売店の設定によっては、手順3、4の操作では、待受受信中の音声は出ないことがあります。この場合は、信号を受信したとき、音量を調節してください。

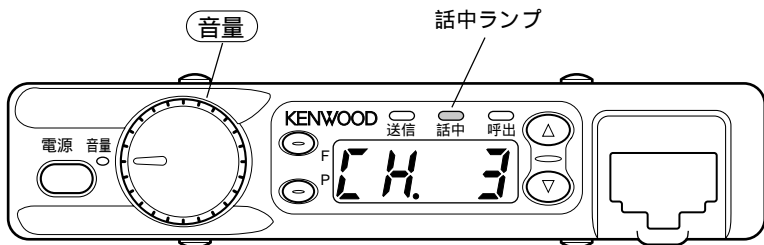
5. 音量を時計方向に回す

ノイズまたは受信信号の音量が大きくなります。

音量つまみを回して聞き易い位置にセットしてください。

注意

- 音量つまみが最小の状態での受信音は販売店での設定により次のような違いがあります(23ページ参照)。
ミニマムボリューム有り：ボリューム最小時受信音の出力あり。
ミニマムボリューム無し：ボリューム最小時受信音は出力なし。



待受受信状態に戻すには

6. スピーカーマイクのスケルチを押す

ノイズスケルチがセットされ、ノイズが消えます。

7. スピーカーマイクをマイク掛け金具に掛ける

シグナリング・スケルチ (CTCSS/DCS) がセットされます。

注意

- シグナリング・スケルチ付きセットの場合
販売店でシグナリング・スケルチの ON/OFF をマイク・フックに設定している場合は、スピーカーマイクをマイク掛け金具へ掛けておかないと、シグナリング・スケルチは動作しません。

受信状態により相手局の電波が聞きとりにくい時は
スピーカーマイクのスケルチを押してノイズスケルチを解除します。
「スケルチ/モニター」(21ページ参照)
スピーカーマイクをマイク掛け金具から外してシグナリング・スケルチを解除します。
「マイクフック機能」(23ページ参照)

販売店の設定によっては、上記の操作では、スケルチを解除できないことがあります。

送信操作

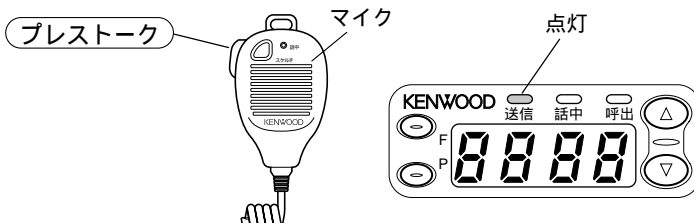
送信する前にしばらく受信状態にして、他局が通話中でないことを確認してください。
シグナリング・スケルチ (CTCSS/DCS) 付きセットの場合、スピーカーマイクから音は聞こえていなくても、他局が通話中のことがあります。「話中ランプ」が点灯していないことを確認してください。

注意

- ・通信は免許状に記載された無線局の目的、通信の相手方、通信事項の範囲を超えないでください。(非常通信など電波法で定める場合を除く)
- ・他人の依頼による通信を行わないでください。
- ・1回の通信時間は、5分を超えないでください。
再び通信を行う場合は、1分以上経過するまでは呼び出しを行わないでください。(非常通信など電波法で定める場合を除く)

1. スピーカーマイクの「プレストーク」を押す

送信状態になり、無線機の「送信ランプ」が点灯します。



2. マイクに向かって話す

マイクと口もとの間隔は、5 cm 位が適当です。

注意

- ・あまり大きな声で話したり、マイクとの距離が近すぎると、明瞭度が低下する場合があります。
- ・相手局が受信に切替えてから送話してください。
- ・用件は簡潔に伝えてください。
送話が長引く場合は、ときどき相手局の返事を確認してください。

閉局

運用を終了するには

無線機本体の「電源」を押す

電源が切れます。

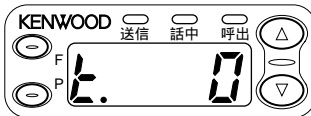
基地局の場合は、ベースステーションの電源も切ってください。

受信音質設定

受信音質を調整して、使用するスピーカーや無線機の設置環境または使用者の好みに合わせて聞き取りやすくする機能です。

1. あらかじめ電源を切る
2. (F) を押しながら (電源) を押す

受信音質設定モードになり、現在の設定値が表示されます。お買い上げ時は「0」が設定されています。



3. ()、() を押す

設定値を「-5～5」の範囲で変更します。「0」より大きくすると高音域が強調され、「0」より小さくすると低音域が強調されます。

4. (F) を押す

設定値を確定します。

ビープ音量設定

キー操作時に鳴るビープ音量の設定を切り替える機能です。

1. あらかじめ電源を切る
2. () を押しながら (電源) を押す

ビープ音量設定モードになり、現在の設定値が表示されます。お買い上げ時は「10」が設定されています。



3. ()、() を押す

設定値を「1～10」の範囲で変更します。設定値を小さくするとビープ音量が小さくなり、設定値を大きくするとビープ音量が大きくなります。

4. (F) を押す

設定値を確定します。

スケルチレベル設定

受信信号に含まれるノイズの大きに合わせてスケルチを動作させるレベルを設定する機能です。ノイズが小さい時はスケルチレベルを小、ノイズが大きい時はスケルチレベルを大に設定します。

1. あらかじめ電源を切る

2. **スケルチ** を押しながら **電源** を押す

スケルチレベル設定モードになり、現在の設定値が表示されます。お買い上げ時は「5」が設定されています。



3. **0**、**9** を押す

設定値を「0～9」の範囲で変更します。

4. **F** を押す

設定値を確認します。

セレコール機能

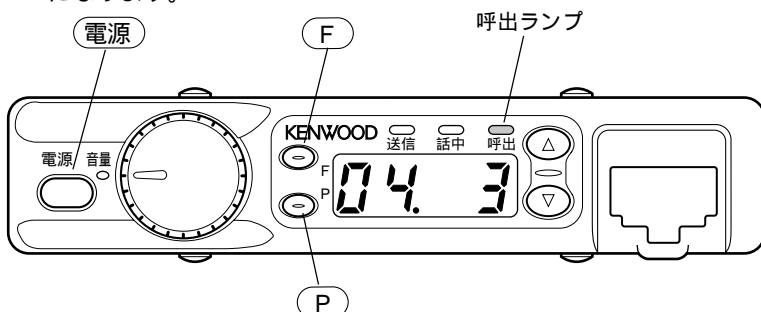
各種セレコール機能を使用するには、セレコール機能をONにしておきます。この機能は販売店においてのみ設定可能です。使用する機能によっては、オプションのセレコールターミナルTSS-10が必要になります。

「呼出ランプ」が点灯していないとき

1. (F) を1秒間以上押す

「呼出ランプ」が点灯し、セレコール機能がONになります。

再び1秒間以上押すと「呼出ランプ」が消灯し、セレコール機能がOFFになります。



参考

- ・ オプションのセレコールターミナルTSS-10を使用してセレコール機能をONにする場合は、TSS-10の取扱説明書を参照してください。

セレコール呼び出し

セレコール呼び出しは、呼び出す相手局の数により次の4通りから選択できます。

1局だけを呼び出す（個別呼び出し）

1グループだけを呼び出す（グループ呼び出し）

通話中を除く、すべての局を呼び出す（一斉呼び出し）

通話中を含む、すべての局を呼び出す（一斉割り込み呼び出し）

呼び出しは、表示と呼び出し音で行ないます。

1. (P) を押す

目的に応じて、相手のセレコール番号を選択します。

個別呼び出しのとき 00 ~ 99（予め設定してある個別番号）

グループ呼び出しのとき F0 ~ F9（予め設定してあるグループ番号）

一斉呼び出しのとき FF

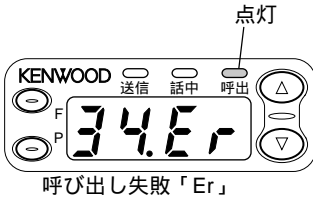
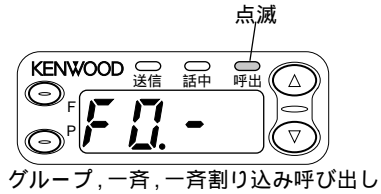
一斉割り込み呼び出しのとき ... FA

参考

- ・ セレコール番号は予め販売店で設定されています。
- ・ セレコール番号のプリセットは最大10件まで可能です。
- ・ セレコールターミナル接続中のセレコール番号の指定は、セレコールターミナルからのみとし、無線機側での選択はできません。

2. プレストーク を押し続ける

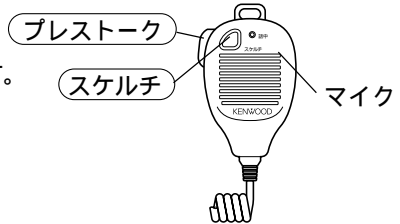
手順1.で選択した相手が呼び出されると、「Cn(コネクト)」が表示されて、「呼出ランプ」が点滅します。「Er(エラー)」が表示されたら呼び出しは失敗です。もう一度(プレストーク)を押してください。



「呼出ランプ」が点滅したら、(プレストーク)を押したまま

3. マイクに向かって話す

手順1.で選択した相手と通信します。



受信に戻るには

4. (プレストーク)を離す

「呼出ランプ」が点滅している間は、手順1.で選択した相手とつながっています。相手が送信すると、その声がスピーカーから聞こえてきます。

呼び出しを終了するには

5. (プレストーク)を押しながら(スケルチ)を押す。または(スケルチ)を1秒間以上押すか、()、()を押す



呼び出された局は

呼び出し音が鳴り、「呼出ランプ」が点滅します。

(プレストーク)を押しながら、マイクに向かって話す

セレコール不在着信

受信する相手が無線機のそばを離れていても、着信があったことがわかる機能です。不在中の局と連絡を取りたいときに便利です。

不在着信機能 あり F0/F1 無効時

相手呼び出すには

1. (P) を押す

相手のセレコール番号を選択します。

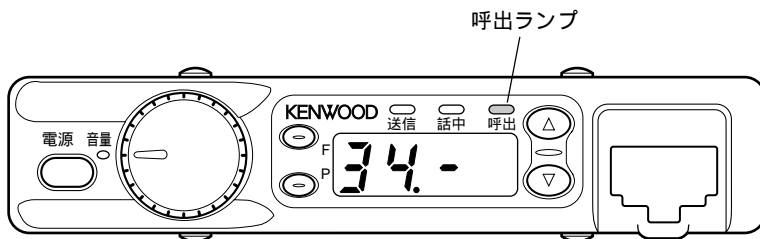
個別呼び出しのみ00 ~ 99 (予め設定してある個別番号)

2. (プレストーク) を押し続ける

手順 1. で選択した相手が呼び出されると、「呼出ランプ」が点滅します。

不在のときに着信があると、

- ・ ビープ音が鳴って着信を知らせると同時に、
- ・ 「呼出ランプ」が点滅して、ディスプレイに相手局のセレコール番号と「 」を表示して、その後「Ed」(エンド)を表示します。



不在着信を受信して、呼び出しに応答するには

(プレストーク) を押しつづけ、「Cn」(コネク)が表示したら話す

いったんプレストークスイッチを離すと、メモリーされていた相手局のセレコール番号は消えます。

不在着信を受信して、応答せずに、呼び出しを解除するには

(スケルチ) を押す

不在着信機能 あり F0/F1 有効時

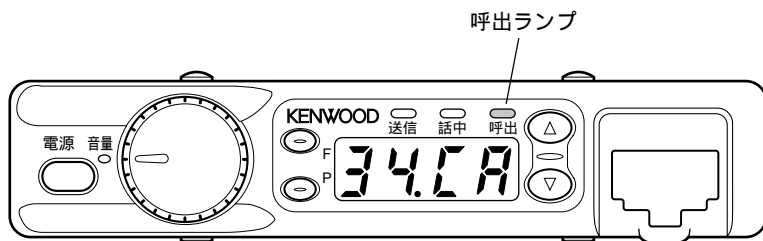
相手呼び出すには(オプションのセレコールターミナルTSS-10が必要です。)

1. オプションTSS-10の操作でセレコール番号を入力し、相手呼び出す

選択した相手が呼び出されると、オプションTSS-10の「話中/送信ランプ」が点灯して、ディスプレイに相手局のセレコール番号と「Cn」(コネクト)を表示します。詳しい操作については、オプションTSS-10の取扱説明書「個別呼び出し/不在着信」の項目を参照してください。

不在のときに着信があると、

- ・ビープ音が鳴って着信を知らせると同時に、
- ・「呼出ランプ」が点滅して、ディスプレイに相手局のセレコール番号と「CA」(コール)を表示します。



不在着信を受信して、呼び出しに応答するには

プレストーク を押しつづけ、「Cn」(コネクト)が表示したら話す

いったんプレストークスイッチを離すと、メモリーされていた相手局のセレコール番号は消えます。

不在着信を受信して、応答せずに、呼び出しを解除するには

スケルチ を押す

メモリーされていた相手局のセレコール番号は消えます。

セレコール・メッセージメモリー

不在中に着信したセレコール・メッセージ(セレコール番号とメッセージ番号)を自動的にメモリーして、後から呼び出して確認する機能です。メモリーは最大10件までで、それ以上の着信があると古いデータから順に消去されます。

1. セレコール番号が表示されている状態で、

(F)を押す



相手のセレコール番号「34」

メモリー番号「0」

メッセージ番号「2」

2. ()、()を押す

押すたびにメモリー番号と共に着信データが切り替わります。

確認のみの場合

3. 10秒間何もしないか、(F)を押す

セレコール・メッセージ表示モードを解除して、元の表示に戻ります。

受信した相手にメッセージを送り返す場合(オプションTSS-10接続時は動作しません。)

上記手順3.に引き続いて操作します。

4. (P)を押す

()、()を押してメッセージ番号を変更します。メッセージ番号は0~9で、この番号にあらかじめ意味づけしておくことでメッセージを伝えることができます。

例：1 会社に電話をしてください。 2 渋滞中で、電話できません。

5. (F)を押す

メッセージ番号の点滅が点灯に変わり番号を確定します。

6. (プレストーク)を押す

セレコール番号の相手にメッセージを送り返し、呼び出すことができます。

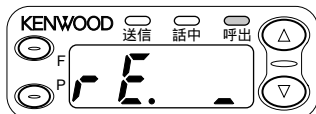
呼び出しをを終了するには

7. (プレストーク)を押しながら(スケルチ)を押す。または(スケルチ)を1秒間以上押すか、()、()を押す

セレコール・メッセージ自動応答

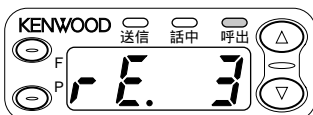
不在中に呼び出されたとき、あらかじめ設定しておいたメッセージ番号を自動的に送り返す機能です。この機能は販売店においてのみ設定可能です。

1. (F) を押し、自動応答メッセージ設定モードにする



2. (), () を押す

設定したい自動応答メッセージ番号を表示させます。メッセージ番号は「0」～「9」の1桁の数字です。



3. (F) を押す

メッセージ番号の点滅が点灯に変わり番号を確定します。

自動応答機能がONになります。(F) を押すと手順1に戻ります。



セレコール・プリセット呼び出し

よく使う個別呼び出しやグループ呼び出し番号を、あらかじめ登録しておくと、(P) を押すだけでその番号を呼び出せます。登録は10件まで販売店で設定します。

1. (P) を押す

押すたびに登録されているセレコール番号を順番に呼び出して表示します。

(), () を押してもセレコール番号を変更できます。必要なセレコール番号を選択してください。

注意

プリセット呼び出しを行なった後5秒間何も操作しないしていると、予め設定されているリセットセレコール番号の表示に戻ります。

2. (プレストーク) を押す

表示しているセレコール番号の呼び出しを行ないます。

エマージェンシー

緊急事態発生時エマージェンシーデータを送信して、指定局に知らせる機能です。受信側は、エマージェンシーデータを受信するとピープ音と表示で緊急事態発生を知らせます。この機能は販売店においてのみ設定可能です。

1. エマージェンシー機能を ON に設定する

コネクタCN3の1番ピン(EMG端子)と4番ピン(GND)をショートまたはオープンすると(販売店の設定により変わります)、エマージェンシー機能がONに設定されます。エマージェンシーチャンネルに移行して3回エマージェンシーデータを送出したのち運用チャンネルに戻り、再びエマージェンシーデータを販売店で設定されている回数送出します。

2. 受信状態に戻る

以後、電源を切るまでスケルチは閉じたままとなります。

受信側は

1. エマージェンシーデータを受け取ると、呼び出し側のセレコール番号を表示して、ピープ音が鳴ります



2. 何かキーを押すとピープ音が止まり、再び何かキーを押すと、エマージェンシー表示が消えます

注意

- ・簡易無線機または一般業務用無線機をシングルチャンネルで使用するときは、エマージェンシーチャンネルの設定はできません。
- ・受信側の運用チャンネルと送信側のエマージェンシーチャンネルが同じチャンネルに設定されていないと、エマージェンシーの受信動作はできません。

録音再生制御

オプションの録音再生ユニット(UT-6B)を取り付けて、タクシー等で指令内容を録音/再生する機能です。この機能は販売店においてのみ設定可能です。

録音制御

簡易無線・一般業務用無線のとき

以下の条件で録音を開始します。

- ・音声出力がミュートされていないとき
- ・通話中または信号を受信しているとき
- ・データを受信していないとき
- ・**プレストーク** が押されていないとき

GPS-AVMのとき

以下の条件で録音を開始します。

- ・KGP-2Aから個別呼び出し一致信号(ID)を受信し、音声出力がミュートされていないとき

再生制御

販売店において、下記のいずれかに設定できます。

- ・**スケルチ** を押すと再生、**スケルチ** を1秒間以上押すとスケルチ動作になります。
- ・**スケルチ** を1秒間以上押すと再生、**スケルチ** を押すとスケルチ動作になります。

再生制御は録音再生ユニットから再生終了信号を検出したときか、再生開始後16秒経過した時点で終了します。

注意

- ・再生中は受信音声は出なくなります。
- ・再生中に**スケルチ** を押すと、再び先頭から再生しなおします。
- ・再生中に**プレストーク** を押すと、再生を中止します。

スケルチ



その他の機能

次のような機能もあります。これらの機能は販売店においてのみ設定可能です。詳細については、お買い上げの販売店にご相談ください。

スケルチオ - プンの遅延機能

送信開始時に発信する識別信号を聞こえなくするために、スケルチの開く時間を遅らす機能です。

スケルチ/モニター

手でスケルチを開く、またはシグナリングを解除し、受信信号の状態をモニターする機能です。

(スケルチ)に「モニターモーメンタリ」、「モニターロック」、「スケルチOFF」、「スケルチトグル」のいずれかを設定することができます。

- ・「モニターモーメンタリ」に設定されている時
 - 1.(スケルチ)を押す：押している間モニターONになります。「話中ランプ」が点灯します。
 - 2.(スケルチ)を離す：モニターOFFになる。
- ・「モニターロック」に設定されている時
 - 1.(スケルチ)を押す：押すたびにモニターがON/OFFする。モニターがONの間「話中ランプ」が点灯します。
- ・「スケルチOFF」に設定されている時
 - 1.(スケルチ)を押す：押している間スケルチがOFFになり、モニター音が聞こえます。「話中ランプ」が点灯します。
- ・「スケルチトグル」に設定されている時
 - 1.(スケルチ)を押す：押すたびにスケルチがON/OFFする。スケルチがOFFの間モニター音が聞こえ、「話中ランプ」が点灯します。

セレコール動作ミュート解除条件選択機能

セレコール機能を使用時、ミュート解除の条件を次の2つの中から選択できる機能です。

- ・セレコール一致時アンミュート
混信を避けるために電波の飛びは犠牲にできる地域（都市部）で有効です。
- ・セレコール不一致時ミュート
混信は有っても電波の飛びを重視する地域（地方）で有効です。

一斉・グループ呼び出しコード送出遅延機能

バッテリーセーブに入っているポータブル局に対して一斉・グループ呼び出しが確実にできるようにする機能です。

タイムアウトタイマー

一人の人がチャンネルを長時間占有しないように、一定時間以上送信を続けると、自動的に受信状態に戻す機能です。設定できる時間は次の通りです。

簡易無線、一般業務無線の場合

- ・タイムアウトタイマー制限時間：30～300秒（STEP=30秒），OFF：制限なし
連続送信できる時間の設定です。
- ・ロック予告時間：0～250秒（STEP=10秒），0：予告音なし
送信制限時間の何秒前に予告音を鳴らすかを設定します。
- ・送信ロック時間：0～900秒（STEP=30秒），0：解除なし
送信を制限時間まで続けると送信できなくなり、次の送信が可能となるまでの時間設定です。

AVMシステムの場合

- ・タイムアウトタイマー制限時間：0～999秒（STEP=1秒），0：制限なし
連続送信できる時間の設定です。
- ・ロック予告時間：0～998秒（STEP=1秒），0：予告音なし
送信制限時間の何秒前に予告音を鳴らすかを設定します。
- ・送信ロック時間：0～999分（STEP=1分），0：解除なし
送信を制限時間まで続けると送信できなくなり、次の送信が可能となるまでの時間設定です。

トーンモードによる音声のミュートと話中ランプの制御

トーンモードの設定により音声のミュートと「話中ランプ」の制御を変更する機能です。タクシーのシステムで使用します。トーンモードの種類による動作は次のようになります。

トーンモード：通常（通話時のみキャリア有り、通話時トーン有り）

	スケルチON時		スケルチOFF時	
	音声出力	話中ランプ	音声出力	話中ランプ
キャリア有り CTCSS/DCS一致	アンミュート (有)	点灯	アンミュート (有)	点灯
キャリア有り CTCSS/DCS不一致	ミュート (無)	点灯	ミュート (無)	点灯
キャリア無し	ミュート (無)	消灯	ミュート (無)	点灯

トーンモード：通話時（常時キャリア有り、通話時トーン有り）（逆タクシートーン）

	スケルチON時		スケルチOFF時	
	音声出力	話中ランプ	音声出力	話中ランプ
キャリア有り CTCSS一致	アンミュート (有)	点灯	アンミュート (有)	点灯
キャリア有り CTCSS不一致	ミュート (無)	点灯	ミュート (無)	点灯
キャリア無し	ミュート (無)	消灯	ミュート (無)	点灯

トーンモード：無通話時（常時キャリア有り、無通話時トーン有り）（タクシートーン）

	スケルチON時		スケルチOFF時	
	音声出力	話中ランプ	音声出力	話中ランプ
キャリア有り CTCSS一致	ミュート (無)	消灯	ミュート (無)	消灯
キャリア有り CTCSS不一致	アンミュート (有)	点灯	アンミュート (有)	点灯
キャリア無し	ミュート (無)	消灯	アンミュート (有)	点灯

ビープ音のON/OFF

キー操作時のビープ音を鳴らさないようにする機能です。静かに使いたい場所ではOFFにすることができます。

ビジーチャンネルロックアウト

送信しようとしているチャンネルを他の局が使用中の場合は、そのチャンネルでの送信を禁止する機能です。他のグループの交信を妨害しないようにするためです。ただし、エマージェンシー送信は可能です。

マイクフック機能

マイクをマイク掛け金具から外すとモニター状態になる機能です。通話のためにマイクをマイク掛け金具から外すと自動的に電波の状況をチェックできます。ただし、マイクフック機能はAVMシステムでは動作しません。

マイクミュート解除音

送信開始時に識別信号を送信する間マイク出力は停止されます。したがって、**プレストーク**を押してすぐ通話を始めると頭切れが生じてしまいます。これを防止するために識別信号の送信が終了するとマイクミュート解除音を鳴らし、通話の開始を促す機能です。

ミニマムボリューム

無線機の音量つまみを最小に絞っても、受信音が聞こえるようにする機能です。誤操作で音量つまみを最小に絞ってしまい、受信音が聞こえなくなることを防ぎます。

- ・ミニマムボリューム「あり」に設定すると音量つまみを最小に絞っても受信音が聞こえます。
- ・ミニマムボリューム「なし」に設定すると音量つまみを最小に絞ると、受信音は聞こえなくなります。

リセットセレコール

通常使用するセレコール番号をリセットセレコール番号として設定しておく、他のセレコール番号で呼び出して、終話または呼び出しに失敗して5秒後に自動的にリセットセレコール番号に戻る機能です。例えば、基地局のセレコール番号をリセットセレコール番号に設定しておく、他局と通話した後自動的に基地局のセレコール番号に設定されます。

CTCSS

CTCSSとはContinuous Tone Coded Squelch Systemの略称です。あらかじめ設定しておいたCTCSS周波数を音声信号に付加して送信します。相手局のCTCSS周波数と自局のCTCSS周波数が一致したときに、スケルチが開き受信できます。特定の相手局のみと通信するときにご使用します。CTCSS周波数は39種類の中から選択できます。

DCS

DCSとはDigital Coded Squelchの略称です。あらかじめ設定しておいたDCSコードを音声信号に付加し送信します。相手局のDCSコードと自局のDCSコードが一致したときに、スケルチが開き受信できます。特定の相手局のみと通信したいときに使用します。DCSコードは83種類の中から選択できます。

運用上の注意

免許状

無線局免許状は必ず無線機のそばに備えてください。

本機は技術基準適合証明「技適証明」を受けた送受信機です。本機に貼ってある機種銘版に「技適証明番号」が記入されています。「無線局事項書および工事設計書」裏面の「22 工事設計」の「技術基準適合証明番号」欄には「技適証明番号」を記入してください。

使用上の制限

通話は無線局免許状に記載された次の事項の範囲内で行わなければなりません。

1. 無線局の目的
2. 通信の相手方
3. 通信事項

また、無線機を他人に貸したり、他人のために使用することは原則として出来ません。

免許の有効期限

無線局免許状に記載してある免許の有効期間が過ぎると、無線局の運用はできません。

再免許の申請

引き続き運用する場合は、有効期間が終了する6ヶ月前から3ヶ月前までの間に、再免許の申請をしなければなりません。

免許ならびに再免許の手続きはお買い上げの販売店にご相談ください。

免許の申請その他の手続き

免許の申請や下記の手続きは、お買い上げの販売店にご相談ください。

再免許の申請

無線局免許状の記載事項に変更が生じる場合の手続き

無線局免許状が破れたり、汚れたり、紛失した場合の再交付申請

無線設備を変更したり、新しいものに替える場合

無線局を廃止する場合

その他

保守

故障かな?と思ったら

次のような症状は故障ではありません。該当する項目を確認してください。

それでも具合が悪いときは、お買い上げの販売店にご連絡ください。

症状	原因	処置(参照ページ)
電源スイッチを押しても電源が入らない。	1 電源ケーブルが外れている。 2 ヒューズが切れている。 3 オプションKBS-1の電源が切れている	1 電源ケーブルを接続する。 2 販売店にご相談ください。 3 オプションKBS-1の電源を入れる
受信音が聞こえない。 *注意 右記2~5は、販売店の設定によっては、該当しないことがあります。	1 スピーカーマイクを接続していない。 2 音量を絞っている。 3 シグナリング・スケルチ(CTCSS/DCS)のコードが違う。 4 セレコールのIDが違う。 5 受信電波が弱い。	1 スピーカーマイクを接続する(6ページ)。 2 音量つまみを調整する(9ページ)。 3 スピーカーマイクをマイク掛け金具から外す(8ページ)。 4 スピーカーマイクをマイク掛け金具から外す(8ページ)。 5 スピーカーマイクのスケルチスイッチを押す(8ページ)。
送信出来ない。	1 スピーカーマイクの接続が外れている。 2 連続送信防止機能が働いている。 3 セレコール信号が相手に認識されていない。	1 スピーカーマイクをスピーカーマイクコネクタに接続する(6ページ)。 2 販売店にご相談ください。 3 セレコールをOFFにする(13ページ)。
シグナリング・スケルチやセレコールを設定しているのに、他局の通話が聞こえる。	1 スピーカーマイクがマイク掛け金具から外れている。 2 他局が近くで同じコードを使用している。 3 シグナリング用アースケーブルが外れている。	1 スピーカーマイクをマイク掛け金具に掛ける(9ページ)。 2 販売店にご相談ください。 3 シグナリング用アースケーブルを接続する(7ページ)。
話中ランプが点灯しっぱなしになる。	1 ノイズスケルチが解除されている。	1 スピーカーマイクのスケルチスイッチを押す(9ページ)。
音量を最小にしているのに受信音が聞こえる	1 ミニマムボリューム機能が「あり」になっている	1 販売店にご相談ください。
ピーブ音量が大きい(または小さい)	1 ピープ音量の設定が使用環境に合っていない	1 適切な音量に設定してください(11ページ)。

定格

使用電源	DC13.8 V \pm 10 % / DC26.4 V \pm 10 % (-) 接地
電波型式	F2D・F3E (簡易無線機はF3Eのみ)
送信方式	VCO直接発振 / 増幅
受信方式	PLL制御ダブル・スーパーヘテロダイン方式
音声出力	1.5 W以上 (8オーム、10 %歪時)
受信感度	+ 6dB μ 以下 (12dB SINAD) / TCM-224 2 μ V以下 (20dB NQ) / TCM-124
周波数偏差	\pm 0.0003% (TCM-224) , \pm 0.001% (TCM-124)
外形寸法	幅120 mm 高さ25 mm 奥行150 mm
質 量	約650 g (本体のみ)

付属品とオプション (別売)

付属品			オプション (別売)		
品名	数量	備考	品名	モデル名	備考
スピーカーマイク	1	コンデンサ型	ベースステーション	KBS-1	基地局用
マイク掛け金具	1		セレコールドターミナル	TSS-10	
DC電源コード	1		録音再生ユニット	UT-6B	
車載取付金具	1		スタンドマイク	KMC-33	
取扱説明書	1		モデムGPSレシーバー	KGP-2A	
保証書	1		接続ケーブル	KCT-38	
ケンウッド 全国サービス網	1				

